

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年11月27日(2008.11.27)

【公表番号】特表2008-516060(P2008-516060A)

【公表日】平成20年5月15日(2008.5.15)

【年通号数】公開・登録公報2008-019

【出願番号】特願2007-535982(P2007-535982)

【国際特許分類】

C 0 8 F 2/26 (2006.01)

C 0 8 F 36/06 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 2/26 Z

C 0 8 F 36/06

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月3日(2008.10.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A B S 用の小粒径ポリブタジエンラテックスの調製方法であって、重量で

34.00～45.00%のブタジエン、

第2の単量体 0～6.0%、

脱塩水 52.11～63.13%、

T e r t - ドデシルチオール(T D M) 0.12～0.22%、

乳化剤 0.80～2.60%、

電解質 0.12～0.32%、

K<sub>2</sub>S<sub>2</sub>O<sub>8</sub> 0.06～0.20%

の原料を準備して、乳化剤を含む上記原料を重合反応容器内に加えて、重合のために攪拌及び加熱をするステップと、

ポリブタジエン重合のために、60から75 までの範囲に温度を調節するステップと

、

9から12時間にわたって反応を行うステップと

からなり、前記乳化剤は、オレイン酸カリウムとアビエチン酸カリウムとを1:0.2～8.0の混合比で混合することによって調製され、前記第2の単量体は、スチレン、アクリロニトリル及びメタクリル酸メチルから選択され、かつ

重量で80～90%の乳化剤が他の前記原料とともに反応容器に加えられ、反応温度が65～70 の範囲に調節され、転化率が60～80%に達したときに残りの重量で10～20%の乳化剤が加えられる方法。

【請求項 2】

前記第2の単量体はスチレンであることを特徴とする、請求項1に記載の小粒径ポリブタジエンラテックスの調製方法。

【請求項 3】

前記第2の単量体の添加量は1.2～3.5%であることを特徴とする、請求項1に記載の小粒径ポリブタジエンラテックスの調製方法。

## 【請求項 4】

前記転化率が 40 % に達する前は前記重合の反応温度は 63 ~ 69 の範囲に調節され、前記転化率が 40 % ~ 80 % の範囲にあるときは前記重合の反応温度は 60 ~ 66 の範囲に調節され、前記転化率が 80 % を超えるときは前記重合の反応温度は 70 ~ 75 の範囲に調節されることを特徴とする、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の小粒径ポリブタジエンラテックスの調製方法。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

重合のために攪拌及び加熱をしながら、乳化剤及び上記原料を重合反応容器内に加える。重合温度は 60 ~ 75 の範囲に調節される。反応時間は 9 ~ 12 時間である。乳化剤は混合比 1 : 0.2 ~ 8.0 のオレイン酸カリウムとアビエチン酸カリウムとの混合物から調製され、第 2 の単量体はスチレン、アクリロニトリル及びメタクリル酸メチルから選択される。